

平成30年度 第2回江別市まち・ひと・しごと創生有識者会議 会議録（要点筆記）

日 時：平成30年12月26日（水） 15時30分から17時00分

場 所：江別市民会館 21号室

出席委員：澤井秀座長、田口智子座長代理、伊藤留美子委員、龍田昌樹委員
中橋伸郎委員、吉田岳夫委員、阿部宏昭委員、佐山慶司委員
井上智委員、林武志委員（計10名）

オブザーバー：渡邊幹夫（石狩振興局地域創生部長）

欠席委員：粕谷堅一郎委員、菊地秀人委員（計2名）

事務局：三好市長、企画政策部北川部長、企画政策部白石次長

政策推進課堂前課長、金森参事、中島参事、天明屋主査、坪松主査、山口主任

傍聴者：0名

会議概要

1 委嘱状の交付

【三好市長より全委員に委嘱状を交付】

2 市長挨拶

3 開会

4 委員の紹介

5 座長互選、座長代理指名

委員の互選により、澤井秀座長、田口智子座長代理を選出

【澤井座長あいさつ】

【田口座長代理あいさつ】

【市長退席】

6 議事

（1）江別市まち・ひと・しごと創生総合戦略進捗状況について

【江別市まち・ひと・しごと創生総合戦略進捗状況について、事務局説明】

・資料1 江別市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について

・資料2 江別市まち・ひと・しごと創生総合戦略実施状況一覧

○澤井座長

事務局からの説明に対し、意見等のある委員は発言願う。

○伊藤委員

資料1の6ページ「基本目標③若い世代の結婚・出産・子育てを支援する」の指標である「江別市で子どもを産み育てたいと考えて転入してきた子育て世代（20～40代）の割合」

は、目標値を上回っているが、「子育て環境が充実していると思う市民割合」は、3年間とも50%前後である。

これは「認定こども園若葉幼稚園」の保育定員の拡大や3つの保育園が開設されることにより、解消されていくのか。

○事務局

「子育て環境が充実していると思う市民割合」は、毎年5月に市民5千人を対象に実施している、まちづくり市民アンケートで取得している。このアンケートは子育て世代に限らず、18歳以上の方を対象としているため、今後、保育園を整備した場合でも大幅に指標が改善しない可能性もあるが、子育て環境は充実していくことから、様々な取組と連動させながら市民が実感出来るように進めていこうと考えている。

○田口座長代理

3点、質問がある。

1点目、資料1の4ページ「基本目標②えべつへの新しい人の流れをつくる」の指標である「江別市の認知度の道内順位」について、市の事業として情報発信していることや市民が様々な形で情報発信していることなどがあると思うが、認知度を上げるため、具体的にどのような試みを行っているのか。

2点目、同じく資料1の4ページ「基本目標②えべつへの新しい人の流れをつくる」の指標に「主要観光施設の利用者数（主要5施設）」とあるが、主要5施設とはどの施設を指しているのか。

3点目、資料2の4ページ「障害者就労相談支援事業」では、実績値が3年累計2,441件となっており、目標値の5年間累計1,900件を超えているが、この数値はどのように読み取ると良いのか。単に相談件数が増えたということなのか、または、相談から派生して就労に結びついたと考えると良いのか。

○事務局

1点目、「江別市の認知度の道内順位」は、民間企業が全国の方を対象に行っている地域ブランド力調査から指標を取得している。

江別市の順位を上げるためには、全国に江別市の情報を発信していく必要があり、Facebook等のSNSを活用したシティプロモートを実施している。また、札幌市の地域コミュニティ誌に江別市をPRした記事を掲載している。

2点目、「主要観光施設の利用者数（主要5施設）」に該当する観光施設は、北海道の統計で基準があり、その基準に該当する施設の中から、トンデンファーム、町村農場、旧町村農場、セラミックアートセンター、江別河川防災ステーションの利用者を集計している。

3点目、「障害者就労相談支援事業」の相談件数は、同じ人が複数回相談に来た場合でもカウントしている。障がいがある方が勤められる仕事や短時間勤務など自分の条件に合った仕事はどのようなものがあるか、また、賃金などについても相談に来ていただいている。相談件数の増加が直接就労に結びつくことではないが、相談により就労に関する悩みや疑問が解決できれば良いと考えている。

○澤井座長

全国的に江別市の認知度を上げるという点では、毎年銀座で江別ナイトという催物を行っ

ていたと記憶している。

資料2に各KPIの達成状況が記載されているが、事務局として事業内容を見直す必要がある事業はあるか。

○事務局

「江別市の認知度の道内順位」が平成27年度から21位、20位、20位と続いているので、何らかの方策を打ち、順位を上げられる取組が必要だと思っている。

また、「基本目標①しごとをつくり、安心して働けるようにする」の指標である「食関連企業の新增設数」の昨年度実績が0社だったので、目標である6社の達成に向けて事業のさらなる推進が必要であると考えます。

○澤井座長

その2つを改善すると、来年度には全体として目標を達成できると考えて良いか。

○事務局

目標を達成できるよう事業を推進していく。

○田口座長代理

先程の質問と関連して、「主要観光施設の利用者数（主要5施設）」の観光施設は、トンデンファーム、町村農場、旧町村農場、セラミックアートセンター、江別河川防災ステーションの5つが挙げられていた。地域資源と観光資源の区分がされているかもしれないが、資料2の8ページ「江別アンテナショップGET'S管理運営事業」のKPIが「江別アンテナショップGET'S来客者数」とされている。江別アンテナショップGET'Sは、EBRI内にあるが、「観光資源の主要観光施設の利用者数（主要5施設）」と地域資源の活用による観光の振興の「江別アンテナショップGET'S来客者数」はなぜ分けられているのか。

○事務局

EBRIは、まち・ひと・しごと創生総合戦略策定時には開業していなかったもので、主要観光施設5施設には含まずに当初からの5施設で指標を取っているが、事務事業評価では現在の主要観光施設7施設で指標を取っている。EBRIは観光資源と地域資源には分けていないが、現在の主要観光施設7施設の中に含まれている。

【江別市まち・ひと・しごと創生総合戦略進捗状況について、事務局説明】

・資料3平成31年度地方創生推進交付金申請予定事業

【質疑なし】

（2）江別市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂について

【江別市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂について、事務局説明】

○澤井座長

当初目標としていたKPIをすでに達成して、さらに高い目標を置くことは大変結構である。目標自体がどの程度挑戦的な内容なのかにもよるが、これまで行ってきた取組を続けると達成出来る数値で良いと思う。

事務局からの説明に対し、意見等のある委員は発言願う。

○田口座長代理

2点、質問がある。

1点目、資料4の1ページ新旧対照表19頁に「支援を受けて就職した女性の人数」の「目標値250人（5年間累計）」と記載があり、改訂後も維持されている。支援を受けて就職した女性の人数が25人ということであるが、支援を受けた人数は何名ほどいるのか。また、目標値はどのような理由で250名としたのか。

2点目、資料4の2ページ新旧対照表23頁「地域と大学で連携した若い世代の地域定着」について、学生の地域定着は重要であり、今年も企業から求人募集があったため、江別市に住むことになる学生がいる。「地域定着の取組への大学生の参加人数」として改訂後870人と人数が増加していることは良いことだと思うが、取組内容を簡単に説明していただきたい。

○事務局

1点目、支援を受けた女性の人数、就職まで結びついた人数の比率について、詳細な資料は持ち合わせていないが、専業主婦や子育てが一段落した人、再就職をしたい人など働く意欲のある人を対象に、パソコンの使い方やマナー研修、メイクアップ研修などの研修を受け、就職に結びつけようとするものである。この事業では、食品加工業やコールセンターなど幅広い業務で採用に結びつくよう取り組んでいるが、研修を受けていただく際の会場や予算に制約があり、25人の就職にとどまった。

2点目、「地域定着の取組への大学生の参加人数」は、ジモ×ガクという学生地域定着自治体連携プロジェクトという事業で取組を進めている。これは、江別市だけではなく、芦別市、赤平市、三笠市、南幌町、由仁町、長沼町、栗山町と協力し、コミュニティのボランティア活動やインターンシップなど様々な活動を行っている。資料3の3ページに記載があるが、例として南幌町では農業等各種イベント運営や小学生学習支援など、三笠市では北海盆踊りの補助や市役所インターンシップなどを行い、各地域に関心を持っていただき、就職に結びつける取組である。

(3) 生涯活躍のまち推進事業について

【生涯活躍のまち推進事業について、事務局説明】

【質疑なし】

議事(4) その他

【質疑なし】

7 その他

○事務局

本日をもって今年度の江別市まち・ひと・しごと創生有識者会議は終了となる。来年度の会議の開催については改めて連絡させていただく。

8 閉会